

自己評価表

(愛媛県立大洲高等学校脇川分校)
学校番号(30)

教育方針	1 国家社会の有為な形成者としての資質を養うために知性を高め、心身ともに健康で豊かな人間性と創造力を備えた人間を育成する。 2 生徒の興味・関心・能力に応じた進路実現を目指し、社会の変化に主体的に対応し、貢献できる人材を育成する。	重点目標	1 基礎・基本を重視した丁寧な授業を推進し、すべての生徒が活躍できる場を創出することで、生徒の生きる力を育む。 2 学校行事などの感動体験によって自己有用感を高め、思いやりと豊かな心を持つ生徒を育成する。
-------------	--	-------------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学習指導	授業等の充実	・授業内容の精選を図り、個に応じた分かりやすい授業を行う。 生徒アンケートの授業に関する7項目について、そう思う・ややそう思うと回答する生徒の割合を高める。 A:90%以上 B:80%以上 C:60%以上 D:40%以上 E:40%未満	A	・生徒の評価の平均は97.6%だった。ティームティーチング、実習助手の適切な配置により、支援を要する生徒をはじめ個に応じた授業を試みる事ができた。	・基礎・基本が定着していない生徒が多いため、学び直しの時間を設けるといった工夫を継続しながら、卒業後の進路を視野に入れ、新しい知識が習得できるよう授業研究を行う。
	「総合的な探究の時間」	・能力・適性に応じた個別指導を行い、学習意欲と出席率を高め、好きな教科を増やし、生徒アンケートの「この科目が好きですか」の項目について、そう思う・ややそう思うと回答する生徒の割合を高める。 A:90%以上 B:80%以上 C:60%以上 D:40%以上 E:40%未満	B	・アンケート結果は、1学期末及び2学期末平均で82.2%を達成できた。中学校からの苦手意識が残っている教科もあり、丁寧な個別指導を続けていきたい。	・1人1台端末を利用した学習方法を研究する。また、授業評価アンケートの結果を踏まえ、生徒の意欲を向上させる工夫を行う。
生徒指導	個人面接の充実	・達成感を味わえるような内容を検討し、活動報告の場を設けるなど創意工夫する。	A	・特色を生かした内容を各講座で展開しており、生徒も意欲的に活動ができていた。秋の茶会においては、学校全体で来客者に対しておもてなしを行うことができた。また、校外コンクール(日清製粉主催)に応募、入選した。	・今後も、生徒が他者と協力して主体的に活動することで、問題解決能力が身に付くよう活動内容の改善に努める。
	身だしなみ指導の充実	年間6回以上の個人面接を行う。 A:6回以上 B:5回 C:4回 D:3回 E:2回以下	A	・1人平均6回以上の個人面接を行った。高校生活に不安を抱える生徒や進路に向けた面接などを実施することができた。	・面接や相談に来る生徒とそうでない生徒がいるため、生徒全員と個人面接が行いやすい環境整備や声かけに努める。
		・好ましい服装態度の定着を図り、違反件数の減少を目指す。 A:10件未満 B:15件未満 C:20件未満 D:25件未満 E:25件以上	D	・毎月実施している身だしなみ指導における違反件数は20件であった。軽微な違反であったため、比較的すぐに改善がみられた。	・頭髮の長さでの違反が多くなっているため、身だしなみ指導日以外であっても指導し、日頃から規範意識を持たせる。

※ 評価は5段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった) とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
生徒指導	交通安全指導の充実	・原付通学生を対象に交通安全講習会を実施し、交通事故0を目指す。	A	・原付通学生は大洲自動車教習所にて交通安全講習会を受講した。今年度も交通事故件数は0件であった。	・来年度以降も引き続き交通安全講習会を実施し、交通安全意識を高められるよう指導していく。
	悩み相談	・生徒とのコミュニケーションを大切にし、気軽に悩みを相談できる関係を構築する。	A	・日頃から生徒への声掛けや親身になって相談に乗るなど、生徒たちと良好な関係性を保つことができていた。	・日頃から生徒の様子をよく観察し、担任とも連携を取りながら指導にあたるとともに、教員間でも情報の共有を図る。
進路指導	進路指導の充実	・校内就職模試の平均点が、A:70%以上、B:69~55%、C:54~45%、D:44~35%、E:30%未満の数値を設け、Bランク以上の実現を目指す。	B	・平均点が62.0点であり、目標であったBランク以上の結果を出すことができた。	・出題科目の内容や程度について教科主任を中心に教職員全員で連携を取り、生徒の学習段階に対応した指導を目指す。
	将来の進路や生き方	・アルバイトなど職業実践期間中のさまざまな経験を踏まえながら職業に対する理解を深め、卒業時点での進学・就職内定率100%実現を目指す。	B	・アルバイトを通じて職業に対する理解を深めながら、職業実践期間中には資格取得、入試対策を行い、適切な進路選択の機会を提供できた。	・進路ガイダンスや職場見学などの機会を活用しながら、在学中の進路先選定に向け取り組む。
特別活動	部活動の充実	・県定通制総体で上位入賞を目指す。 A:複数種目優勝、B:1種目優勝、C:2種目以上入賞、D:1種目入賞、E:入賞なし。	D	・1種目準優勝を果たすことができた。また、バドミントン部2名が予選を勝ち抜き、全国大会へ出場することができた。	・日頃の練習内容を充実させ、全国大会出場や定通制県総体での入賞を目指す。
	学校行事の充実	・学校行事に積極的に参加する。また、行事の成功を目指し、生徒が互いに協力し合う態度を育てる。	B	・工夫を凝らして各行事を成功させた。生徒がそれぞれの役割を果たし、生徒間や地域の方々とのよりよい関係作りができた。	・少人数の学校である特徴を生かし、生徒一人一人に活躍の場を設けられるよう工夫し、生徒の自己有用感を高めさせる。
安全管理	緊急時の対応	・防災訓練・避難訓練・シェイクアウトえひめ等を通して、緊急時に適切な判断をし、行動できる力を育てる。	B	・緊急時に、災害に対して各自どのように動けばよいかを判断し対応できるよう年間4回の避難訓練と救命講習会1回を行った。	・様々な状況を想定し、災害に対してどのように対応し行動すればよいか、いろいろな立場や状況で訓練を行う。
保健管理	保健管理	・各種検査や健康診断等の結果を基に、家庭と連携し健康の保持増進を図る。	B	・各種検査等は、年間を通じほぼ予定通り実施でき、検査結果は確実に保護者にも連絡し早期治療を促した。	・各種検査の実施にあたっては、学校行事とともに本校の実施時期も考慮して計画していきたい。
		・生徒が安心して楽しい学校生活を送れる、居場所づくりを目指す。	B	・教職員間での情報共有に努め、積極的に生徒に声を掛け、早めに対応することができた。	・生徒が心身ともに健康を保てるよう、早期対応を心掛け、安心して学校生活を送れるようにする。
組織運営	学校づくりのビジョン	・スクールミッション、スクールポリシーを念頭に、重点努力目標を徹底し、校長の学校づくりのビジョンを教職員間で共有・実践する。	B	・校長の学校づくりのビジョンを理解し、生徒のために教職員の意識統一を図る実践活動ができた。	・今年度の活動状況を踏まえて、重点努力目標やスクールポリシーの見直しを検討する。

※ 評価は5段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった) とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
組織運営	職員会議等	・職員会議や連絡会の資料を事前に配布して会議の効率化を図り、活発な意見交換を行う。	B	・議題や資料の精選など職員会議の効率化が図れ、時間短縮と活発な意見交換を行うことができた。	・さらなる効率化のために、事前に打ち合わせできる内容については、話し合いの進め方などについて担当者と事前検討を行う。
教職員の働き方	勤務時間等	・教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。時間の有効活用とマネジメントの意識を向上させる。ノー残業デーを設定しライフワークバランスの意識向上に努める。	B	・効果的なテレワークの実施や金曜日のノー残業デーなど、勤務時間を意識し、効率よく活動することで、勤務時間外の労働を最小限に抑えられた。	・校務分掌における分担方法の改善や業務の均等化を図る。また、テレワークのさらなる効果的な活用や、教職員の心身のリフレッシュに努める。
	休暇の適切な活用	・年休の適切な活用を促進し、休めるときには休むという意識の定着を図る。	A	・年休の取得など、休みやすい雰囲気づくりができており、適切な休暇を取得できている。	・長期休業中など、休める時には休むという意識の定着のため、年休取得の適切な促進に努める。
研修	授業研修等	・研究授業を、ホームルーム関係1回、教科関係2回実施する。	D	・相互参観授業の形式で、授業研修を教科及びホームルーム活動で実施した。	・各種研修機会を積極的に生かし、内容を共有できるようにする。
図書	読書活動の充実	・年間10冊以上の貸出冊数を目指す。A:10冊以上 B:7冊以上 C:4冊以上 D:2冊以上 E:1冊以上	A	・貸出冊数は一人当たり15.5冊であった。授業での活用や希望図書の購入により、多くの生徒が読書に親しむことができた。	・教科指導やホームルーム活動での活用等、図書に触れる機会を増やし、読書の習慣を定着させる。
保護者との連携	保護者との連携	・保護者の学校行事参加率90%以上を目指す。A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:60%以上 E:50%以上	A	・体育祭や文化祭での共同展示やバザー等多くの保護者の協力を得て、実施することができた。	・PTA理事会等において、十分な話し合いが行えるようにPTA会長との連携を密にして、学校行事をより充実させる。
	保護者等への情報提供	・保護者が教職員に気軽に相談できる雰囲気づくりをする。	B	・必要な場面では、その都度連絡を取るよう努めた。	・必要に応じて連絡を密に取り、より良い連携が取れるよう努める。
人権教育	人権教育の充実	・PTA月報及びホームページを活用して、学校の情報や活動の様子を随時提供する。A:HPアクセス数150以上 B:100以上 C:75以上 D:50以上 E:50未満	D	・PTA月報で文書で伝えるとともに、今年度も学校生活の様子についてホームページで随時情報提供することができた。	・PTA月報で文書で伝えるとともに、ホームページで学校の情報や活動の様子を随時提供する。
		・いじめのない明るい学校づくりを目指す。A:0件 B:1件 C:2件 D:3件 E:4件以上	A	・年2回の困りごとアンケートの結果、今年度のいじめ発生件数は0件であった。今後も継続して早期発見・情報共有に努めたい。	・アンケートや面談により、友人関係のトラブル等の早期発見、早期対応に努める。
環境教育	職場環境	・生徒一人一人のニーズを正確に把握し、それに応じた教育を提供する。	B	・担任をはじめとする各教職員との良好な関係構築により、生徒の状況把握に努めた。	・教職員間の情報共有により、チームとして対応に当たる。
		・心身共にストレスなく健康的に働き、仕事に充実感を持てる環境づくりを目指す。	A	・職員間のコミュニケーションは良好で、心身共にストレスの少ない職場環境ができています。	・労いや感謝の言葉を声に出して伝え、やりがいを持って働ける職場環境を整える。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。